

2022 年度 教職センターの運営体制

【教職センターのメンバー】

- ・センター長・副センター長・教育学部専任教員・関係職員（教務学生課）

【教職センターの職務内容と担当教員】

諸プロジェクト

(1) 教育実習プロジェクト

茨城県担当・埼玉県担当・東京都担当

「教育実習アンケート」結果を基にした実習先斡旋依頼、各種手続き等

「教育実習の手引き」「教育実習日誌」作成

(2) インターンシップ・ボランティア活動検討プロジェクト

「ボランティア活動」単位化に伴う担当

(2)-1・初等教育専攻：開智望小・開智小学校担当

(2)-2・中等教育専攻：開智日本橋学園担当

(2)-3・中央区柏学園担当

(2)-4・柏市ボランティア活動担当

・柏市放課後子ども教室（ステップアップ学習会 柏市立第五小学校）

(3) 養成塾関係

(3)-1・東京教師養成塾

(3)-2・ちば！教職たまごプロジェクト

(4) 基礎学力向上・教員採用試験対策プロジェクト

(5) 民間企業・公務員（教員を除く）等を目指す就職指導プロジェクト

キャリアセンターとの連携事業

(6) 「開智国際大学教職センター研究年報」関係

「教職センター研究年報 2022」号の刊行準備

(7) 介護等体験関係

社会福祉施設、特別支援学校での実施に向けて

(8) ラーニング・コモンズ

教職センター活用法の検討

【学部】

* 「教職課程自己点検評価報告書」作成関係

* 令和 5 年度以降教職課程変更に関する担当

2022年度 教職センター 活動報告

(1) プロジェクト名 〈 教育実習プロジェクト 〉

活動内容

1. ねらい

学生に対して：実習に必要な環境整備を行う。各学生の実習についての希望と資格の把握、等実習にむけての学生の状況の把握を行う。教育実習実施に向けての学生の指導を行う。

教員に対して：教育実習についての情報提供と実習実施への具体的な働きかけを行う。

教育委員会に対して：実習協力校についての状況確認と新たな実習協力校の開発を行う。本学の教育実習体制についての理解を得られるように情報交換を行い、緊密な協力体制を築いていく。

教育実習予定校に対して：実習希望学生が実習を十分行えるために依頼等必要な対応を行う。

2. 実施内容

全体的な仕事として

- ・教育実習の実施における各種作業。
- ・柏市教育委員会との連絡。
- ・開智学園各学校等の連絡。
- ・教育実習実施校との連絡
- ・教員と教務学生課との連絡体制の調整。

1年生に対して

- ・4月のガイダンスにて、教育実習関係についての事務的なスケジュールの通知。

2年生に対して

- ・教育実習についてのアンケートを実施と実習に関する資料の作成。
- ・母校実習を行う学生の依頼状況把握と依頼の補助。

3年生に対して

- ・実習実施にむけての指導。
- ・教育実習資格の確認と対応。
- ・ボランティア状況についての確認。

4年生に対して

- ・教育実習実施と個別指導

3. 2023年度に向けて

今年度の活動から得られた反省点を次年度に活かしていく。具体的には、アンケートの内容やガイダンスの内容、タイミングを見直し、より効果的な教育実習になるよう改善を目指していく。今後、教育実習の時期に関する議論が進んでいくと思われるので、価値のある教育実習ができるように本学のみならず学外の組織とも積極的に関わっていく。

2022年度 教職センター 活動報告

(2) -1 プロジェクト名 〈インターンシップ・ボランティア活動検討プロジェクト〉

(初等教育専攻)

活動内容

1. ねらい

学校の教育現場を観察したり参加・実習したりすることで、教員の仕事をより理解するとともに子供との関わり方を学び、教員になりたいという意欲を高め、自分なりの課題をもつ。

2. 実施内容

併設校の協力を得て、以下の取組を実施した。

(1) 学校見学等

- ・開智望小学校運動会の見学及びお手伝い（対象：1年生）

2022年5月21日（土）4名の参加

- ・開智望小学校 学校公開授業（対象：1年生）

2022年9月12日（月）10名の参加

2022年9月13日（火）14名の参加

(2) 学校ボランティア等

- ・開智望小学校の学校説明会及び授業体験会に伴う協力

（活動内容） 学校説明会が行われている間、入学予定幼児等を各教室に集め、保育及び活動をさせる。また、年長幼児のワークショップ及び、年中・年少幼児の預かり（遊び）を教員の補助として活動する。

2022年4月16日（土）5名の参加

2022年4月29日（金・祝）6名の参加

2022年7月9日（土）6名の参加

2022年8月21日（日）8名の参加

2023年1月14日（土）6名の参加

(3) 集中インターンシップ

（活動内容） 1年生の希望者を対象に、開智望小学校において4日間連続の学校体験に取り組んだ。学生は各学級担任につき、授業、生徒指導等の様子を実際に体験するとともに、子供と直接触れ合い関わり合いながら、教師という仕事について学んだ。

A日程 2023年2月6日（月）～10日（金）※2月7日を除く 12名の参加

B日程 2023年2月20日（月）～24日（金）※2月23日を除く 12名の参加

(4) 3年インターンシップ（学校ボランティア）

（活動内容） 3年生は、原則として4年次に行う教育実習校で、週1回定期的にボランティアに取り組むよう指導していることから、多くの学生が、教育実習先となる小学校で学校ボランティアを継続的に行った。

3. 2023年度に向けて

今年度も、新型コロナウイルスの感染状況が、学校ボランティア等の実施に少なからず影響した。受け入れていただく学校の考えや不安等だけでなく学生の感染、体調への不安等から、ボランティア等への参加希望者の減少がみられた。

教職を目指す学生にとって、学校ボランティア等での体験的な学びは、大学での学びと実践を結びつける上で極めて重要な取組である。いわゆる“ウイズコロナ”に対応するため、改めて併設校、柏市内小中学校、近隣市立小中学校等での学校ボランティア・インターンシップ等の在り方、その実施に向けた構想を検討し充実させ、より満足できる取組にしていきたい。

2022年度 教職センター 活動報告

(2) ー2 プロジェクト名 〈インターンシップ・ボランティア活動検討プロジェクト〉

(中等教育専攻)

活動内容

1. ねらい

- 1年：さまざまな経験を通じて、〈職業としての教員〉を知り、理解する。教員になりたいという意欲を高め、各自の課題を発見する。
- 2年：教科に特化したさまざまな経験を通じて、教育と教員の現状を理解する。課題を意識しながら、自分なりの教師像をつくる。

2. 実施内容

- 4月、開智日本橋学園中学校・高等学校の担当者と打ち合わせを行い、実施計画の詳細を策定した。
引き続き新型コロナウイルス感染症を警戒する必要を鑑み、文化祭等の催事への参加、およびキックオフミーティングは行わず、9月に集中して実施すること等とした。
- 5月～6月、インターンシップ参加者を募集した。
- 7月 下記のとおり、インターンシップ説明会を実施した。
 - 1年生 7月20日（水）
 - 2年生 7月27日（水）
 - 3年生 7月21日（木）
- 9月3日（土）～9月13日（火） 中等インターンシップ実施。参加学生は、各自自分の専攻（国語・英語）の授業を選択し、体調管理に万全の注意を払いながら、授業見学を行った。参加予定者は41名（1年生14名、2年生13名、3年生14名）。
- 10月 インターンシップについての参加学生のフィードバックを行い、実施校担当者と共有した。

3. 2023年度に向けて

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、過去2年間インターンシップを行う機会を持つことができなかった3年生が多く参加し、彼らにとって実り多い体験となったことがフィードバックからも見て取れる。また専攻に応じた授業見学を行うことにより、インターンシップでの経験と大学での学修とのつながりが参加者によってよりよく意識されていたように思う。

2022年度は従来より時期を変更し、大学の後期授業が始まる前の期間を利用して9月の実施としたが、2023年度は大学の授業との関係や、教職課程の諸日程等との関連を引き続き考慮しながら、実施時期や実施形式を改めて考えていきたい。

2022年度 教職センター 活動報告

(2) ー3 プロジェクト名 〈 インターンシップ・ボランティア活動検討プロジェクト〉

(中央区柏学園)

活動内容

1. ねらい

教職実務の経験を積むための入門として、学校現場における体験・ボランティア活動に取り組むことにより、学校現場や教員の仕事に対する理解を深め、教員の資質を高めることを目的としている。

具体的には、中央区立小学校の児童が自然体験や共同生活を体験する移動教室「セカンドスクール」での研修や、農作物の収穫等の活動への参加を通じて、学生が実地における体験活動・ボランティア活動を行い、教職に対する理解を深める機会とすることを想定している。

2. 実施内容

(1) 活動内容

4月18日	ボランティア活動参加依頼	中央区教育委員会へメールにて「柏学園でのボランティア活動参加依頼」翌日、許可される
4月25日	表敬訪問	柏学園にて、中央区教育委員会
5月16日	打ち合わせ	柏学園にて、ボランティア実施日について打ち合わせ 加藤学園長よりボランティア実施日が通達される
5月19日	前期ボランティア募集開始 5月27日締め切り	1年生から4年生までメールにて通知 グーグルフォームにて応募
6月1日	ボランティア活動説明会	教職センターにて昼休み
6月 7月	8回 2回	詳細は下記参照 ボランティア日の1週間前を目安にボランティア数を 加藤学園長へ報告
7月6日	後期ボランティア募集開始 7月27日申し込み締め切り	1年生から4年生までメールにて通知 グーグルフォームにて応募
7月20日 7月27日	ボランティア活動説明会	教職センターにて
9月 10月 11月	3回 3回 3回	詳細は下記参照 ボランティア日の1週間前を目安にボランティア数を 加藤学園長へ報告
1月	来年度に向けて	振り返り
3月	来年度に向けて	学園長と打ち合わせ予定

(2) ボランティア活動報告

		学校名	人数	中等	初等	欠席	備考
1	6月2日(木)	京橋築地小学校	2	2	0		
2	6月7日(火)	有馬小学校	5	3	2		
3	6月9日(木)	月島第一小学校	4	2	2		
4	6月16日(木)	常盤小学校	3	3	0		
5	6月21日(火)	月島第三小学校	5	3	2		
6	6月23日(木)	明石小学校	3	1	2		
7	6月28日(火)	日本橋小学校	4	2	2		
8	6月30日(木)	泰明小学校	2	0	2		
9	7月5日(火)	久松小学校	5	4	1		
10	7月7日(木)	明正小学校	2	0	2		
11	9月6日(火)	月島第二小学校	4	4	0		
12	9月8日(木)	阪本小学校	2	1	1		
13	9月13日(火)	佃島小学校	5	5	0		
14	10月18日(火)	豊海小学校	4	1	3		
15	10月20日(木)	小学校特別支援学級	5	0	5		
16	10月27日(木)	城東小学校	2	0	2		
17	11月1日(火)	銀座中学校特別支援学級	4	3	1	1	5名申込のみ、説明会欠席
18	11月2日(水) 午前	中学校特別支援学級	4	4	0	2	
19	11月2日(水) 午後	中学校特別支援学級	4	4	0	1	
延べ人数			69	42	27		

3. 2023年度に向けて

- 全19回、延べ人数69名参加。内、中等42名、初等27名であった。初等の学生の参加を促すことを来年度の課題とする。
- 説明会に参加することを条件とした。前期の申込者は全て説明会に参加したが、後期の申込者に参加しない者が数名いた。周知の徹底を図ることが課題である。
- ボランティアに参加した学生の評判は良いようである。有償ボランティアのお誘いをいただいた学生もいる。

2022年度 教職センター 活動報告

(2) -4 プロジェクト名〈インターンシップ・ボランティア活動検討プロジェクト〉

(柏市ボランティア活動)

【柏市放課後子ども教室 ①ステップアップ学習会（柏市立第五小学校）、②夏休み体験教室】

活動内容

1. ねらい

柏市教育委員会が実施している放課後子ども教室（ステップアップ学習会）に参加することで、教員としての資質を向上させることをねらいとする。

柏市放課後子ども教室（ステップアップ学習会）は、子ども達の学習意欲の向上と学習習慣の定着を目的として柏市内の小中学校で実施されている。本学近隣の柏市立第五小学校において、放課後の児童の自主学習を支援するための学習アドバイザー（有償ボランティア）として参加する。

なお、今年度は、上記のねらいに加えて、放課後子ども教室の一環として柏市教育委員会が実施している「夏休み体験教室」にも参加し、柏市教育委員会との一層の連携を図る。

2. 実施内容

(1) 柏第五小学校放課後子ども教室（ステップアップ学習会）

事前準備 ・柏市教育委員会との事前の連絡・調整
・学生に向けての情報提供と参加呼び掛け（ガイダンス week、ゼミナール等にて）

2022年5月14日（土）

- ・改めて参加希望者の募集開始（メール等による）
- ・参加者リストの作成
- ・柏市教育委員会との最終的な連絡・調整

2022年5月30日（月） 昼休み

- ・希望する学生向けガイダンス及び参加者登録の実施（5名参加）

2022年6月9日（木） ステップアップ学習会スタート

- ・6月～2月ステップアップ学習会
毎週木曜日 13:30～15:30（予定）
年間21回の実施

3月 活動の振り返り ※ 柏市教育委員会との意見交換を含む

(2) 夏休み体験教室

千葉秀一ゼミナール（理科教育）、有志学生の参加の協力を得て実施した。

2022年7月29日（金） ※ 中央公民館

【小学校1年生～3年生対象】 午前

（内容）「空気と水で遊ぼう」 科学遊びをしながら空気と水のふしぎを体験する。

【小学校4年生～6年生対象】 午後

（内容）「空気と水の科学」 空気と水の不思議をペットボトルなど身近な材料で実験する。

3. 2023年度に向けて

「柏第五小学校放課後子ども教室（ステップアップ学習会）」については、今年度、昨年度までと比べてボランティアを希望する学生の数が減少した。昨年度、新型コロナウイルス感染症の影響で、開催が延期になったり、急遽中止になったりしたことが、学生の参加希望に多少なりとも影響があったものと思われる。しかしながら、ボランティアを希望した6名の学生（学習アドバイザー）が頑張って取り組んでくれたこともあり、生涯学習課担当者から大変に感謝された。学生からも「子供に教えるということが楽しく、とても良い経験となった」等の感想が寄せられた。来年度も、柏市教育委員会生涯学習課との連携を図りつつ、充実した取り組みにしていきたい。

また、今年度実施した「夏休み体験教室」は、参加した小学生から大好評を得た。千葉ゼミナールの負担を考慮しつつ、来年度もできるだけ協力ができるよう検討していきたい。

2022年度 教職センター 活動報告

(3)-1 プロジェクト名 〈 東京教師養成塾 〉

活動内容

1. ねらい

社会の変化や子供・保護者の願いを的確に捉えられるよう、豊かな人間性と実践的な指導力を兼ね備えた人材を学生の段階から養成するという東京教師養成塾の目的に応じて、大学教育における理論と、養成塾における実践を往還させ、学校が求める実践的な指導力を有した教員を養成・輩出するとともに、他の学生への意欲付けと情報提供の一助とする。さらに、東京教師養成塾連携大学として、東京都教育委員会とのつながりを保ち、東京都教員採用試験を受験する学生への情報提供等に資する。

2. 活動報告

(1) 東京都教育委員会との連絡調整

① 19期塾生に係る連絡

○第4回 連携大学との連絡会 リモートによるヒアリング

7月6日 13時30分～14時30分※リモートにより実施（ビデオ会議室システム使用）

- ・令和4年度（20期生）入塾選考等に関する情報交換
- ・19期生、本学該当者なしのため、塾生についての情報交換はなし
- ・大学での塾生への指導体制について（別紙「事前アンケート」による確認）

② 20期塾生に係る連絡

○第1回 連携大学との連絡会（20期塾生）

11月4日 10時～11時 ※リモートにより実施（ビデオ会議室システム使用）

- ・20期（令和4年11月入塾）東京教師養成塾入塾者選抜の概要等について
- ・20期（令和4年11月入塾）東京教師養成塾講座内容等について
- ・20期（令和4年11月入塾）育成に関する配慮事項について

○第2回 連携大学との連絡会（20期塾生）

令和5年3月予定（日程調整中）東京都教職員研修センターにて

- ・20期生 情報交換
- ・21期生（令和5年11月入塾）東京教師養成塾入塾者選抜について
- ・事務連絡 入塾選抜の申し込みから入塾手続きまでの手順確認
- ・東京教師養成塾連携大学「出前講座」について

(2) 1・2年年生への広報・周知活動

① 4月当初の1年ゼミ、2年ゼミのガイダンスで東京教師養成塾について資料配付・説明

② 入塾希望者との相談、選抜に関する対策 等

(3) 20 期塾生に係る業務

① 20 期塾生応募、選抜

○3 年生に周知を行い、入塾希望者を募集の意思表示：4 月

※3 年 応募意志 1 名

○説明会・公開講座への学生参加要請 ※5 月 21 日（土）

○学内選抜を経て応募書類の作成・提出（志願表、面接票等）：6 月 13 日提出～受験票の交付

○20 期塾生一次選抜：7 月 10 日（小論文、教職教養・専門教養） ※1 名受験

※一次選抜結果発表 8 月 12 日（金）午前 10 時 ※合格

○20 期塾生二次選抜：9 月初旬（一次合格者 個人面接） ※1 名受験

※二次選考結果（合格）発表 9 月 27 日（火）午前 10 時 ※合格

○入塾手続・入塾届提出：10 月 6 日（木）

○第 20 期 入塾式参列 10 月 9 日（日）

○第 20 期 入塾オリエンテーション 10 月 30 日（日）

② 20 期生入塾者決定後の対応（選抜合格者決定後）

○特別教育実習（指定校）担当教員決定

○特別教育実習指定校決定 葛飾区立道上小学校 ※電話連絡

○特別教育実習担当教員との連絡調整、連携

○指定校への訪問（特別教育実習担当）補佐

3. 2023 年度に向けて

本学教育学部として、第 18・19 期と 2 期続けて塾生を出していなかった（受験者もなし）が、2022 年度は合格者を出し、現在、特別教育実習が順調に進んでいる。来年度も積極的に学生に呼びかけ、受験者を出し、合格させたいと考えている。

(1) 20 期塾生への対応

① 特別教育実習（指定校）担当教員への連絡、連携

② 塾生の所属ゼミ担当教員との連絡調整、連携

③ 指定校との連絡・訪問補佐

(2) 東京都教師養成塾担当として東京都教育委員会との連携に関する職務

① 東京都教育委員会と連携大学との連絡会出席（年間 3 回）

② 東京教師養成塾に関する初等教育専攻 1・2 年生への広報・周知活動

【参考】2023 年度（令和 5 年度）11 月入塾 第 21 期塾生に関する職務（対象：3 年生 初等教育専攻）

① 21 期塾生 応募学生のスケジュール（予定）

ア 3 年生に周知（4 月初旬）を行い、入塾希望者を募集の意思表示：4 月下旬

イ 東京都教育委員会による説明会・公開講座周知、参加要請

ウ 学内選抜を経て応募書類の作成・提出（志願表、面接票等）：5 月

- エ 21期塾生選抜：7月初旬(小論文、教職教養・専門教養、面接)
※令和5年度より面接も含む一括選抜に移行 ※結果発表8月中旬
 - オ 入塾手続・入塾届提出：8月予定
 - カ 第21期塾生 入塾式 10月初旬予定
 - キ 第21期塾生 入塾オリエンテーション10月下旬予定
 - ② 21期塾生入塾者決定後の対応（選抜合格者決定後）
 - ア 特別教育実習（指定校）担当教員決定
 - イ 21期塾生の特別教育実習担当、所属ゼミ担当教員との連絡調整、連携
 - ウ 21期塾生入塾式等への出席
 - エ 指定校への訪問（特別教育実習担当）補佐
- (4) 1・2年生への広報・周知活動
- ① 4月当初の1年ゼミ、2年ゼミのガイダンスで東京教師養成塾について資料配付・説明
 - ② 「東京教師養成塾出前講座」の開催（必要に応じて）
 - ③ 入塾希望者との相談、選抜に関する対策 等

2022年度 教職センター 活動報告

(3)-2 プロジェクト名 〈 ちば！教職たまごプロジェクト 〉

活動内容

1. ねらい

千葉県で行われている教職への準備としての「ちば！教職たまごプロジェクト」について、学生に対して情報を提供し、希望する学生に対して指導を行う。

2. 実施内容

- 2022年4月~5月 ゼミⅢの全体会において教育学部3年生のうち、千葉県教員を希望する学生を対象に『ちば！教職たまごプロジェクト』の概要についての説明を行った。
- 2022年9月 柏市内の小中学校でのボランティアを優先させるため、掲示板に積極的に募集案内を掲示はしないことに教職センター会議で決定した。
- 2022年11月 2022年度『ちば！教職たまごプロジェクト』の資料を教育委員会から受領し、希望学生がいれば案内するという形式をとった。
- 2023年12月 柏市内の小学校におけるボランティアと重複して申し込んだ学生に対し、柏市内の小学校でのボランティアを優先させるよう指導した。

3. 2023年度に向けて

学生に積極的に周知しないため、各自で申し込んでしまう学生がいる。周知の仕方を再考する必要がある。

2022年度 教職センター 活動報告

(4) プロジェクト名 〈基礎学力向上・教員採用試験対策プロジェクト〉

活動内容

1. ねらい

都県が実施する教員採用試験の合格を目指して、必要な基礎学力の向上を図りつつ、一般教養、教職教養、専門教養、論文、面接等の試験に合格する実力をつける。

2. 実施内容

(1) 4年生対象「採用試験直前」コース

※2022年3月23日(水)及び24日(木)に、「教育実習に向けての教科基礎講座(事前講座)」を実施した。(教育実習と教員採用試験に向けた、必要な基礎学力等の確認)

〈小学校で教育実習を行う学生〉(202教室)

実施日	時間	内容
3月22日(火)	9:00~12:00	国語
3月23日(水)	9:00~12:00	算数

〈中学校・高等学校で教育実習(国語)を行う学生〉(203教室)

実施日	時間	内容
3月22日(火)	9:00~12:00	国語
3月23日(水)	9:00~12:00	国語

〈中学校・高等学校で教育実習(英語)を行う学生〉(204教室)

実施日	時間	内容
3月22日(火)	9:00~12:00	英語
3月23日(水)	9:00~12:00	英語

※2022年4月27日(水)には、千葉県教育委員会の協力を得て、教員採用試験に向けた説明会を開催した。

- ・教員採用試験対策講座は、前年度に引き続き4月から6月まで毎週水曜日3限に、教員採用試験予想問題、模擬面接、模擬論文に取り組んだ。
- ・教員採用試験1次試験合格者を対象に2次試験対策講座を、8月1日(月)~24日(水)の約4週間、集中講座を開催した。(個人面接、集団討論、模擬授業、教育論文等の指導、取組)

(2) 3年生対象「採用試験実戦」コース

- ・6月22日(水)3限、及び7月13日(水)昼休みに、教員採用試験対策講座のオリエンテーションを実施した。
- ・6月22日(水)3限(オリエンテーション後)から、次年度7月の教員採用試験に向けて教員採用試験対策講座をスタートさせた。

(7月13日(水)3限、及び9月21日(水)以降は毎週水曜日3限に開催)

- ・3月までに22回開催した。内容は以下の通りである。

- ①問題集を基にした確認テスト(45分)
- ②答え合わせ等(10分)
- ③面接を視野に入れた教職専門についての講義・演習等(35分)

※学内模試の実施

※7月27日（水）2限、時事通信出版局中川晴雄氏を招き、講演会「次年度の教員採用試験に向けて」を実施した。

(3) 1年生、2年生対象「基礎力養成・向上」コース

・ゼミナールⅠ・Ⅱの計画に、教員採用試験に向けた意識を高める「進路ガイダンス（教職の魅力を伝える内容等を含む）」を実施するとともに、教員採用試験問題及び日本語検定練習問題等の取り組みを位置付け実施した。

3. 2023年度に向けて

「教員採用試験対策講座が、他の授業等と重なり参加が難しい」という声がある。対策講座の時間設定を工夫することが重要な課題である。

また、来年度は、教員採用試験対策講座を外部の業者に委託して実施する方向が決まっている。教員採用試験を受験する多くの学生が、より参加しやすくなること、より充実した講座が展開されることが期待される場所である。

一方で、特に1年生及び2年生を対象に、教育学部としての学生の基礎的な学力を維持、向上させていくことを計画的に進めていく必要がある。学生の基礎学力向上の取組と、業者に委託する教員採用試験対策講座との関連や、業者と大学教員との連携協力を円滑、かつ効果的に図っていくことが重要であり、課題になってくる。課題を踏まえ、教員採用試験を受験する学生をしっかりと支援していきたい。

2022年度 教職センター 活動報告

5) プロジェクト名 〈 民間企業・公務員(教員を除く)等を目指す就職指導プロジェクト 〉

活動内容

1. ねらい

キャリアセンターと連携し、民間企業及び教師を除く公務員を目指す学生のサポートを行う。また、教員採用試験の受験と民間企業への就職活動を二本立てで検討する学生についてもキャリア支援を行う。

【活動計画】

- ①教職を除く就職活動および教職と二本立てで考えている学生を把握する。
- ②1・2学年は、興味を持った分野の公務員1dayインターンシップに参加する。
⇒ 柏警察署、我孫子消防署、ハローワーク松戸、自衛隊にて実施したが、教育学部参加者はいない。
- ② 2学年は、興味ある企業に自ら進んで3～5日程度のインターンシップに申し込み、企業体験を行う。
⇒ 2学年のうちからキャリアセンターを有効活用し、積極的にインターンシップ参加できる環境を整えていく。
- ③3学年は、就職を意識した企業にインターンシップを申し込み、経験を積む。
⇒ 教員志望者が多く、就職ガイダンスへの参加率は昨年度より低い。
- ④4学年は、企業説明会へ積極的に参加するためのサポートをする。
⇒ 早期内定を決めた学生が教員志望へ、または教員志望学生が民間企業へと4学年においてもシフトチェンジする者が数名いた。

2. 実施内容

- 4月21日(木):「就職ガイダンス①」就職サイト登録会を開催、教育学部20名が参加した。
- 4月28日(木):「就職ガイダンス②」OB・OGセミナーを開催、教育学部5名が参加した。
- 5月12日(木):「就職ガイダンス③」就活の身だしなみ・メイク講座を開催、教育学部3名が参加した。
- 5月18日(木):「公務員ガイダンス」を開催、教育学部1名が参加した。
- 5月19日(木):「就職ガイダンス④」インターンシップ基礎講座を開催、教育学部4名が参加した。
- 5月26日(木):「就職ガイダンス⑤」履歴書・ESの書き方講座を開催、教育学部4名が参加した。
- 6月01日(木):「自治体による業務説明会」(柏市役所)を開催、教育学部22名が参加した。
(1年9名、2年9名、3年3名、4年1名、計22名)
- 6月02日(木):「就職ガイダンス⑥」面接・マナー講座を開催、教育学部3名が参加した。
- 6月09日(木):「就職ガイダンス⑦」適性検査ガイダンスを開催、教育学部3名が参加した。
- 6月16日(木):「就職ガイダンス⑧」WEB模擬テスト受験会を開催、教育学部3名が参加した。
- 6月23日(木):「就活スタートアップセミナー」を開催、教育学部18名が参加した。
- 7月1日(木):「就活スタートアップセミナー」を開催、教育学部18名が参加した。
- 7月15日(木):SPI模擬試験を実施し、教育学部8名が受験した。
- 10月20日(木):就活スタートアップセミナーを開催し、教育学部20名が参加した。
- 10月20日(木):「内定者座談会」を開催、教育学部1名が参加した。

11月10日(木)：「第1回業界研究会」ヤオコー(株)・(株)インソースを開催、教育学部参加者なし。
11月17日(木)：「第2回業界研究会」(株)共立メンテナンス・渡辺パイプ(株)を開催、教育学部参加者なし。
11月24日(木)：「第3回業界研究会」丸三証券(株)を開催、教育学部参加者なし。
12月01日(木)：「第4回業界研究会」三協フロンティア(株)・センコー(株)を開催、教育学部参加者なし。
※昨年度より、「毎週木曜日は就活の日」と位置づけ、木曜日5限にガイダンスを実施した。

3. 2023年度に向けて

- ・個に応じた指導を心掛け、丁寧に面談を実施していく。
- ・民間企業への就職希望者は、1年生のうちから積極的にキャリアガイダンスに参加してもらう。
- ・今後もキャリアセンターと協力し、きめ細かな対応を心掛ける。
- ・4学年においても進路変更するケースがあり、学生の気持ちは揺れ動く。今後は、早い段階で教員に向いているかどうかを見極めることができるように、授業見学やインターンシップ、ボランティア等に積極的に参加してほしい。また、その上で、自身の進路を客観的視点に立ち、判断することが重要である。

2022年度 教職センター 活動報告

(6) プロジェクト名 〈「開智国際大学教職センター研究年報」〉

(「教職センター研究年報 2022」号刊行)

活動内容

1. ねらい

教職センターの2022年度の活動内容を総括し、センター員による研究成果としての論文・報告等を掲載することを目的に「開智国際大学教職センター研究年報 2022 (通巻第4号)」を刊行する。

2. 実施内容

(1) 「開智国際大学教職センター研究年報 2022 (通巻第4号)」(以下「年報 2022」と略称)の編集・刊行に当たった。

① 内容：2022年度教職センター活動報告、センター員の研究論文・報告、資料編

① 刊行時期および方法：2023年3月 紙媒体のみとする。

(2) 2022年度活動内容

- 4月～5月
 - ・「開智国際大学教職センター研究年報 2021」刊行に関する振り返りを行った。
 - ・「年報 2022」の構成を今年度教職センター活動報告、センター員の研究論文・報告、資料編とすることを決定し、センター員に周知した。
 - ・「刊行規定」及び「投稿規定」の確認を行い、センター員に周知した
 - ・ 刊行までの日程を確認した。
- 10月
 - ・ 原稿執筆用テンプレートの書式確認を行い、「研究論文・報告」の原稿募集案内をセンター員に行い、「投稿事前申し込み」の受付を開始した
 - ・「教職センター活動報告」、各「プロジェクト報告」、「資料集」の原稿執筆を依頼した。
- 11月
 - ・「研究論文・報告」への「投稿事前申し込み」締め切りを行い、投稿希望論文数の大よそを把握したのち、「正式申し込み」の受付を開始した。
 - ・印刷および製本を発注する複数の業者を候補として選出し、各社の見積もりを取った。
- 1月～2月
 - ・各種原稿の締め切りを行い、総頁数および経費の概略を把握し、調整を行った。
 - ・校正と編集作業に入った。
 - ・印刷および製本業者の決定、納品日等の交渉等を行った。
- 3月
 - ・納品および請求書の受理、支払完了等の報告を総務会計課に確認。
 - ・「年報 2022」の刊行を確認し、センター員への刊行報告、関係機関への発送。

3. 2023年度に向けて

教職センターの活動内容の総括およびセンター員による研究成果の発表を目的として「年報 2023 (通巻第5号)」を刊行する。

2022年度 教職センター 活動報告

(7) プロジェクト名 〈 介護等体験 〉

活動内容

1. ねらい

教員免許状(小・中学校)の取得のために必要な介護等体験の意義を理解し、社会福祉施設や特別支援学校での体験を通じて、教員としての資質を向上させる。

2. 実施内容

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、介護等体験代替措置について文部科学省より通知があり、運営会議にて承認された代替措置(4)を実施した。

代替措置(4)： 在学する大学等において、令和4年度に(独)国立特別支援教育総合研究所が開設する免許法認定通信教育の科目に係る印刷教材の学修の成果を確認する。

対象者： 73名

運営方法： Google Classroom に「介護等体験」のクラスを開設し、教材の配布、学修報告書の回収、学生への指導(フィードバック、質疑応答等)をおこなう。

教材： 「聴覚障害児の教育課程及び指導法(令和4年度前期・全15回)」

(「同意書兼利用態様届出書」を事務局より文部科学省に提出)

課題： 「聴覚障害児の教育課程及び指導法に関する学修報告書(学修の成果(600~800字)と将来の展望(600~800字)」を提出する。

評価： 「学修報告書」の内容に基づき判定する。

事務手続き： 「介護等体験代替措置完了証明書」(署名・押印)を発行する。

7月6日 ガイダンスの実施

代替措置(4)についての説明を行った。

- ・教材の配布
- ・課題の説明と取り組み方の指導
- ・「学修報告書」の提出方法の説明(提出期限：9月11日)
- ・判定後の手続きについての説明(「介護等体験代替措置完了証明書」への署名・押印)

参加： 73名

欠席(事前連絡無し)： 1名 → 本年度の対象外とした(「介護等体験の手引き」参照)

11月中旬 第1回判定会議

提出された「学修報告書」の判定を行った。

合格： 57名

要再提出： 15名（期限は12月31日）

不合格： 1名（課題未提出者）

学生へのフィードバック方法について確認した。

- ・事務局より判定結果を学生に通知する。
- ・「優良レポート」（10名）を本人の了解を得て全体共有する。

1月中旬 第2回判定会議

再提出された「学修報告書」の判定を行った。

合格： 14

不合格： 1名（辞退）

1月18日 フォローアップ

介護等体験のフォローアップとして、特別支援学校についてより具体的に学ぶ機会を設けた。

目的：特別支援学校について、視聴覚教材を用いてより具体的に学び、特別支援教育についての理解を深める。

日時：2023年1月18日（水）12：20－12：50 （201教室）

内容：視聴覚教材の視聴（約30分）

教材：DVD 『教育実習』第2巻 特別支援学校 橋本創一・櫻井眞治（監修）

課題：Classroomに感想文を提出する（400字程度）（提出期限：1月31日）。

【2022年度の最終結果】

合格： 71名

不合格： 2名

対象外（ガイダンス無断欠席）： 1名

3. 2023年度に向けて

年度末（2月15日）の2年生対象の進路ガイダンスにおいて2023年度の動向について伝える（代替措置の可能性などを含む）。「介護等体験の手引き」を作成し、福祉人材センターへの申請を検討するが、引き続き新型コロナウイルス感染拡大の状況に応じて柔軟な対応が求められる。

2022年度 教職センター 活動報告

(8) プロジェクト名 〈 Learning Commons 〉

活動内容

1. ねらい

Learning Commons (以下、LC と略す)の活性化と、学部教育の一環として、LC 機能を学生による運営に移行することが 2022 年度の目標である。2021 年度は、学生への運営の移行については、昼休みの時間を全面的に学生に移行させることができた。その意味では、足場作りはできたものと考えられる。それをさらに促進させる。

一方、LC の活性化とは、ある意味では学生の学修活動の促進に他ならない。これまでは、学生の利用に関して、どちらかという「待ち」の姿勢であったが、あまり利用されていないのが実情であった。2022 年度はこちらから積極的にはたらきかけることによって、授業時間以外の時間に学修に集中できる場として、学生生活の自然な行動パターンになるべく、仕掛けていく。

2. 実施内容

2-1 学生による LC 管理

理想としては、学生支援の観点から、LC は常に開放されていることが望ましい。しかしながら、教員が管理し得る開室時間には限界がある。そのため、昼休みの開設時間を、LC 学生スタッフを管理人として確保した。どのような LC スタッフをどのようにリクルートするのか、鍵の管理をどのようにするのか、単なる溜まり場とならないようにするにはどうするか、などの課題は残っているものの、学生スタッフが真面目に職責を果たしてくれたおかげで、この点については円滑に進められたと評価している。ただし、昼休みの時間以上には、学生への業務委譲にまでは至らなかった。学生の履修傾向をみると、なるべく空きコマを作らないようにしているようであり、昼休み以外にも拡張していくのは、今後とも難しいのではないかと考えられる。

2-2 LC の活性化

LC という場を利用することで、教員採用試験の対策のみならず、将来の教員としてのスキル・アップをどのように支援できるかという観点から、主に初等教育専攻の学生をターゲットに LC 企画の学習会を実施した。これ自体は本来の LC の利用方法ではないが、先々を見据えた場合、学生が自立的な学習者となるためには、この段階では、ある程度は教員からの牽引が必要であろうとの判断からであった。

具体的には、本学の学生の多くが難を抱えている数的処理(算数・数学)の勉強会である。前期の後半に立ち上げた結果、3 年生 4 名の学生が参加した。学生からの要望で夏期休業中も定期的実施し、後期には 3 年生 7 名の参加となった。実施時の学生には、相互に教え合う様子が見られ、自立的な学習の場として機能しているようであった。

在室を担当した教員がつけている利用記録からも、自主的な勉強の場として利用している学生が、少しずつではあるが増えてきているものと思われる。

3. 2023年度に向けて

2023年度には、4号館(従来の1号館・2号館に加えて、図書館を3号館とする)が開設され、教職センターが4号館の1階に移動する。それに伴って、教職センター内にあったラーニング・コモンズも移動することになる。4号館1階には学生ラウンジがあり(2階は教室)、現在の場所(1号館1階の奥まった場所)よりも、学生の動線に近い場所となる。そのような物理的な条件を生かして、上述の「学生によるLC管理・LCの活性化」を進めていく。